

平成30年度第1回草加市みんなでまちづくり会議

議 事 録

1 開催日時

平成30年4月25日(水)午後7時~午後9時10分

2 開催場所

草加市立中央公民館 第1・2講座室

3 出席者の氏名

(1) 登録員 11名

(2) 事務局 みんなでまちづくり課：山中課長、工藤課長補佐

巖上主査、池田主事、福島主事、鈴木(翔)主事

市民活動センター：鈴木(智)所長、小柳主事、山口臨時職員

4 会議の議題

「まちづくり・ひとづくり」～綾瀬川など市内の河川の積極的な活用や応用～

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者数

2人

7 会議の内容

別紙議事録のとおり

8 議事録署名人

長谷部健一様、小林光雄様

平成30年度第1回草加市みんなでまちづくり会議 議事録

【実施日時】 平成30年4月25日(水)午後7時~午後9時10分

【実施場所】 草加市立中央公民館 第1・2講座室

【出席者】 まちづくり登録員：11名、傍聴者：2名

事務局：みんなでまちづくり課 山中課長、工藤課長補佐

巖上主査、池田主事、福島主事、鈴木(翔)主事

市民活動センター 鈴木(智)所長、小柳主事、山口臨時職員

1. 開 会

2. 議 事

<議題> 「まちづくり・ひとづくり」 ~ 綾瀬川など市内の河川の積極的な活用や応用 ~

3. 閉 会

【議事内容】

<p>【事務局】 (鈴木所長)</p>	<p>本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。定刻になりましたので、平成30年度第1回草加市みんなでまちづくり会議を開催します。本日司会を務めさせていただきます、市民活動センター所長の鈴木です。よろしくお願いします。</p> <p>初めに、事務局のみんなでまちづくり課 課長、山中より挨拶を申し上げます。</p>
<p>【事務局】 (山中課長)</p>	<p>みなさんこんばんは。ゴールデンウィーク前の大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>今日は【登録員D】から出題いただきましたテーマ、水辺のまちづくりということで、本日の会議で最終的にまとめるような事でお伺いしております。いろんな意見がたくさんあると思いますが、みんなでまちづくり課の職員も話し合いに参加させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお話ししたいと思っております。また、前回、産業振興課からリノベーションの話をしていただきたいたいということで、本日は産業振興課長の高橋が冒頭で話をさせていただくようになるかと思っております。本日はよろしくお願いします。</p>
<p>【事務局】 (鈴木所長)</p>	<p>それでは議題に入る前に、この“みんなでまちづくり会議”の概要について手短かに説明させていただきますと思います。</p> <p>- みんなまち会議の概要 -</p> <p>本日、皆さまにお集まりいただいているこの「草加市みんなでまちづくり会議」は、草加市みんなでまちづくり自治基本条例に基づき開催している会議です。この「草加市みんなでまちづくり自治基本条例」は市の条例の中で最も基本となるものとして、『だれもが幸せなまち』をつくるため、市政の基本となる原則や方針を定めるものとして施行されました。この条例の特徴は、市民の提案権や発言の場などを保障し、市民のみなさんが直接まちづくりに参加できるところにあります。</p> <p>会議を進めていく中で、テーマについて意見交換をし、今後、市民(NPO)と市で協働</p>

	<p>で事業を実施していこう、ということになれば、担当課との協力も必要になりますが、みなさんのまちづくりを市に提案できることになっています。</p> <p>以上のような位置づけの会議です。</p> <p>それでは、皆様にお配りした資料の確認です。</p> <p>配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の次第 ・資料1 「テーマ一覧」 ・資料2 「平成29年度第4回草加市みんなでまちづくり会議 意見の整理」 ・資料3 「平成30年度第1回草加市みんなでまちづくり会議 意見整理書」 ・資料4 「都市計画マスタープランより(抜粋)」 ・資料5 仮称「綾瀬川クラブハウス」 ・資料6 「みんなでまちづくり会議の運用」 <p>資料は揃っていますか。資料が不足している方は挙手でお知らせください。なお、自治基本条例条文(規則条文含む)は配布しておりませんが、必要な方がいましたら事務局までお知らせください。</p> <p>【会議録の署名について】</p> <p>次に、会議開催に当たり議事録を作成しますので、議事録の署名人を2名決定します。本日は、長谷部様、小林様をお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。</p> <p>【登録員一同】</p> <p>・・・賛成・・・</p> <p>【事務局】 (鈴木所長)</p> <p>それでは、長谷部様、小林様、議事録の署名につきまして、よろしく申し上げます。</p> <p>本日の議題は、資料1の全体テーマ「まちづくり・ひとづくり」のうち、「綾瀬川など市内の河川の積極的な活用と応用」がテーマとなります。</p> <p>このテーマで会議を行ってきましたが、産業振興課で進めている事業についてお話を聞きたいとのことで、本日は産業振興課の高橋課長にお越しいただいています。</p> <p>高橋課長のお話を聞いた後、このテーマについて議論を進めていければと思います。</p> <p>本日の会議の進行役ですが、【登録員A】をお願いいたします。なお、本日、【登録員K】は所用により欠席されていますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それではよろしくお願いいたします。</p> <p>【登録員A】</p> <p>進行を務めさせていただきます【登録員A】でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>まず、議題に入る前に、【傍聴者A】がいらっしゃっており、一言お話がありますということなのでよろしくお願いいたします。</p> <p>【傍聴者A】</p> <p>みなさん、こんばんは。今日は草加市みんなでまちづくり会議を聞きたいと思いまして参りました、氷川町に住んでおります【傍聴者A】と申します。みなさんよろしくお願いいたします</p>
--	---

	<p>します。私の趣味は、山登り、スキー、ゴミ拾い、美化活動です。私は草加に来まして45・6年になります。2年前までは東京に会社があり、それこそ埼玉都民ということで、草加市のことはそれこそ歴史、経済、文化、町名や右も左も何もわかりませんでした。2年前から昼間は人材センターに入りまして、公園や会社、個人宅の除草作業をさせていただいております。たまたま綾瀬川でカヌーに乗りながらゴミを拾っている人に出会い、それがきっかけで、現在綾瀬川でゴミ拾いに参加させていただいています。少しでもみなさんと草加市のまちづくりについてお役に立ちたいと思ひまして今日は参りました。よろしくお願ひします。</p>
<p>【登録員A】</p>	<p>ありがとうございます。では次に本題に入りまして、本日の資料の説明を事務局から願ひします。</p>
<p>【事務局】 (鈴木所長)</p>	<p>資料1「テーマ一覧」 資料2「平成29年度第4回草加市みんなでまちづくり会議 意見の整理」 資料3「平成30年度第1回草加市みんなでまちづくり会議 意見整理書」 資料3は、「協働の視点」を確認いただきつつ、前回話し合っただけで出された各グループの意見のまとめ資料であり、「短期的な視点」と「中・長期的な視点」と分けて記載しています。 資料4は、都市計画マスタープランより、今回の水辺を活かしたまちづくりに関連したページについて抽出しました。 資料5の仮称「綾瀬川クラブハウス」は、【登録員D】からの提案書です。 資料6「みんなでまちづくり会議の運用」はこの会議の位置づけです。 資料は揃っていますか。資料が不足している方は挙手でお知らせください。なお、自治基本条例条文(規則条文含む)は配布していませんが、必要な方がいましたら事務局までお知らせください。</p>
<p>【登録員A】</p>	<p>ありがとうございます。資料2の中で、補足意見として「産業振興課で取り組んでいるリノベーションまちづくり事業を参考にするのがよい」というご意見がありました。前回の話し合いの時に、みなさんいろんな立場でご活躍をされていると思いますが、その情報の共有が少ないのではないかとということがありました。草加市ではどのような取り組みをしているのかという前段階の予備知識があった方がいい、情報の共有化をした上での話し合いという意見がありましたので、今回、産業振興課の高橋課長に来ていただきました。市では産業的にはどのような視点で進めていくのか事前に話をさせていただきたいと思ひます。よろしく願ひいたします。</p>
<p>【産業振興課】 (高橋課長)</p>	<p>みなさん、こんばんは。貴重なお時間をありがとうございます。草加市の産業振興課長をしております高橋でございます。よろしく願ひいたします。 草加市では様々なまちづくりが進められています。その中で、こちらにいらっしゃる皆様と同様に、これからの草加に思いを馳せ、これからの草加を主体的に変えていこうという意識を持った市民の方々が主体となって取り組んでいるまちづくりの一例として、そうかりノ</p>

バージョンまちづくりをご紹介申し上げたいと思います。

3年程前からこの取り組みをさせていただいておりますが、以前もこちらの会議でご紹介をさせていただいております。あれから2年半経っておりますが、その間に地域のみなさんの力でまちに具体的な取り組みが進められています。その辺りを中間報告も含めてご紹介できればと思います。

5月27日に行います「そうかりノベーションまちづくりさんぽ」という、実際の取り組みをご覧いただくというイベントのチラシがちょうど出来上がりましたので持ってまいりました。改めて、リノベーションまちづくりは何であるのかをご説明させていただけたらと思います。草加市では今後人口減少局面を迎え、空き店舗や空き家が出ることが予想されます。リノベーションまちづくりとは、民間の自律型まちづくり会社である家守会社などが空き家や空き店舗などをリノベーション、いわゆる改修をして新たな魅力を引き出し、それを小さなエリアに集中させることで、民間の力で特色のあるまちをつくっていくという取り組みでございます。具体的にはこのまちをこういうまちにしていきたい、このまちにはこんな取り組み、こんなビジネスが必要だということを市民の皆さまにお考えいただいて、自ら取り組んでいくというまちづくりです。その時に、空いている物件を活用したほうがスピーディーに事業をできるという話でございます。現在の草加の空き家・空き店舗率が2.9%で、この比率が高いのか低いのかということですが、実は相当低い数字です。埼玉県内の平均でも11%を超えています。全国平均ですと10%、直近では20%に近づいている状況だろうと言われています。少なくとも5年前の調査で全国に820万戸の空き家がある状況です。人口に対しての空き家が相当の割合となっております。ただ、草加は少ないというのが現状です。では、なぜリノベーションまちづくりという方法をとっているのかと言うと、空き家、空き店舗の対策はもちろんありますが、それ以上にベッドタウン化していく中で、このまちに必要な時間を使う場所、お金を使う場所、また余暇を楽しむ場所、仕事をする場所、こんな日常の暮らしをつくっていくことが必要だろう、欲しい暮らしを自分でつくっていく、こういう考え方で進めさせていただいております。そのきっかけになるためには、学びの場が必要だということで、具体的な取り組みは、そうかりノベーションまちづくり協議会という、それぞれの立場でリノベーションまちづくりを進めていただく担い手のみなさんによる集合体での組織で進めていただいております。行政は学びの場を用意するというので、具体的な学びの場としてリノベーションスクールという場をみなさんと一緒につくりあげております。リノベーションスクールとは何かと言いますと、3日間の日程で、実在の不動産を対象に不動産を活用してどういビジネスを行えばこの地域の課題解決につながっていくかを検討します。コミュニティの活性化、ママさんの居場所、パパさんの居場所、また多世代交流、特にベッドタウンという特色が強いですから、みなさんコミュニティに関心が強いと思います。こういった形でコミュニティ、産業振興、様々な点からなる地域の課題を解決につなぐビジネスを3日間で考え、3日目の午後に不動産のオーナーに公開の場で直接提案をして、オーナーがぜひやりましようとなりますと、受講生自らがビジネスを行っていくこととなります。提案で終わるのではなくて、自分でやっていくという取り組みでございます。その中で、先ほど申し上げた実際のビジネスをやる会社をまちづくり会社という意味で家守会社と呼んでおりますが、草加にはすでに4社誕生しております。そのうち3社が中心となって、リノベーションスクールの案件をどんどん事業化しております。ちょうどこの4月から6月のところで

5案件が順次オープンしていきます。そうしますと、草加市内にだいたい18から9の案件がリノベーションまちづくりとして生まれてきて、それがまちの変化のきっかけになり、これから様々な事業のきっかけになっていくだろうと考えております。具体的な場所と言いますと、中心市街地である草加駅東口、いわゆる旧日光街道沿いを中心とした草加宿、こちらで進められています。ここにある空き家や空き店舗を活用しながら、この地域の課題解決につながるビジネスをまずしっかり始めて、そこから変化をつくりだしていこうという取り組みでございます。リノベーションスクールは平成28年11月に1回、29年9月に1回、計2回やっております。2つのスクールで7つの案件が実際のボードに乗りまして、そのうち6つの案件が事業化されて、今オーナーさんとの交渉に入っております。具体的な例で申し上げますと、まず初めに立ち上がったのは、「野菜とお酒のバル スバル」という、18年閉じていたお寿司屋さんをリノベーションした、地域のお野菜を活用した洋風の居酒屋です。こちらがちょうど1年前に立ち上がりました。また、この後4・5・6月まで順次立ち上がってオープンする中で一番早いのが「キッチンスタジオ アオイエ」という料理教室です。単純に料理だけでなく、地域のコミュニティの核となる様々な多世代の方を対象にした料理教室です。また、いろんなイベントやっていく地域コミュニティの場になります。こちらが草加駅前から旧日光街道に入り、八幡神社境内の入口のところにある古いアパートを活用して4月28日にオープンします。その次にオープンするのが「洋食屋 あたーぶる」です。これも地域コミュニティの核を目指すということで、東京で修業をしたシェフさんがオープンさせます。その後オープンするのが、草加駅前の埼玉りそな銀行の向かいにあるTSCボードステージで、民間のまちづくり会社にお貸しをして、食を中心としたコミュニティパーク「soso park」をオープン予定です。今工事に入っており、6月の中旬頃オープンする予定です。また、スバルの向かいにあるカフェ「ecoma coffee」がオープン予定です。全体を通してみますと、コミュニティというところ、もしくは地域資源を活用していくところを事業のコンセプトにしています。また、草加ならではのと思うのが、実は物件の都合で八幡町に構えることになったのですが、「シェアアトリエ つなぐば」です。ママさんがお子さんを連れて働けるシェアアトリエです。子どもを預けるのではなく、またお子さんがいるから働きに出られないのではなく、お子さんを連れてみんなで働こうというものです。こういうシェアアトリエがアパートを全部改装して6月24日にオープン予定です。このような形で市民のみなさんが草加のまちを住みやすく変えていこうという取り組みがリノベーションまちづくりでして、地域の不動産オーナーや創業者のみなさんも自らリノベーションして新たな事業を立ち上げていく中、少しずつ草加の旧町を中心に変化が出てきて、その取り組みが市内外に広がりつつあるということが現状であります。あくまでこれは志ある民間の方々为主体となって取り組むまちづくり、自らの欲しいまちをつくっていこうという主体的な取り組みということで、全国的にも評価されているところでございます。以上でございます。

【登録員A】

ありがとうございました。高橋課長からお話がありましたが、これからみなさんで話し合いをする前に分からない点や聞いておきたい事がありましたらお願いします。

【登録員B】

運営に関しての選定というのは、運営会社の方からの申し出なのですか。基準は全くない

	<p>のですか。</p>
<p>【産業振興課】 （高橋課長）</p>	<p>基本的にはリノベーションスクール対象案件を事業化する段階ですので、オーナーと受講生との間で、この人たちに任せたいという方が運営会社をつくって進められていますから、いわゆる市が選ぶとかそういう話しではないです。</p>
<p>【登録員B】</p>	<p>受講生の中で運営会社をつくるということですか。</p>
<p>【産業振興課】 （高橋課長）</p>	<p>そうです。まさに自分たちがやるのでお任せくださいとオーナーを説得して、それで会社を立ち上げて事業をやるという形です。</p>
<p>【登録員B】</p>	<p>実際に運営実績を出しているところはどこですか。</p>
<p>【産業振興課】 （高橋課長）</p>	<p>まさに今、4月から6月に立ち上がって事業としてスタートしていきます。会社はもうできていまして、具体的に事業がスタートしていきます。</p>
<p>【登録員B】</p>	<p>まだ、これからなのですね。</p>
<p>【産業振興課】 （高橋課長）</p>	<p>今は工事中です。ですから、会場ができて、お金を借りて、工事をして用意ドンというタイミングです。</p>
<p>【登録員B】</p>	<p>それは何年後かにまた見直しをして考える可能性もあるのですか。</p>
<p>【産業振興課】 （高橋課長）</p>	<p>順調にいけば、この後2つ目の案件、3つ目の案件と周辺のエリアの変化を目指して事業展開をしていくのですが、当然ビジネスですので、この辺りはみなさんで創意工夫をしながら前向きに進めていくところです。</p>
<p>【登録員B】</p>	<p>地場のものとか人を利用してというのですが、なぜ住吉をベースにしているのですか。</p>
<p>【産業振興課】 （高橋課長）</p>	<p>基本的には、旧中心市街地であるところのいわゆる日光街道沿いの草加宿をまずしっかりとエリアの再生をしていきます。ここで生まれた取り組みが市全体、また東武線沿線に波及していく、そういう目標を持っています。</p>
<p>【登録員B】</p>	<p>日光街道がひとつのコンセプトになっているのですか。</p>
<p>【産業振興課】 （高橋課長）</p>	<p>中心市街地であるところの草加宿というイメージです。まず、ここが中心市街地としての機能を失いつつあるという危機感からスタートしていますので、まずそこをしっかりとやるのではないかと。その取り組みが自然と市全体に伝播していくことによって、まち全体のにぎわいにつながればいいねという考えでございます。</p>

【登録員B】	分かりました。
【登録員A】	他に何かございますか。
【登録員C】	民間でやっていくということで、運営資金等はすべて民間会社が責任を持つということなのですが、初めの資金が必要だと思います。これについて、市はどれくらい関わっているのですか。
【産業振興課】 (高橋課長)	資金に関しては一切市の方から出してはいません。ご自分の資金と銀行からの借り入れの部分で賄っています。その代わり、事業化するにあたっての事業のブラッシュアップ、いわゆる事業の精度を高めていったり、それから様々な経営感覚だとか、そういうところに関しては市としても環境整備をしていくお手伝いをしていくということになります。
【登録員A】	他にどなたかいらっしゃいますか。いなければ私の方から一つ質問をさせていただきたいです。旧日光街道からということで産業振興課の方が力を入れていただいているとのことですが、今回の議題としてはここから綾瀬川の方に流れをつくりたいということがひとつの方向性としてあると思います。松原周辺と川に関するところで、リノベーションだったり草加駅の方から人を集めて何かすることを産業振興課では考えているのですか。もし何かあるようでしたらお願いします。
【産業振興課】 (高橋課長)	まず、草加駅を降りて日光街道を歩く中でそこがまずしっかりとにぎわっていなければ、その先の草加松原には迎え入れにくだろうという思いを持ってまして、そういった意味で足元になるところの日光街道を通るところ、草加駅を通るところの部分をしっかりとやりましょうというのが産業振興課の考えです。その後、観光という観点では、周遊していただくような仕掛けが先般文化観光の話をした和舟の部分ですとかお休み処の部分ですとか、そういった部分が生きてくるのでであろうと行政的には考えています。
【登録員A】	ありがとうございました。他にどなたか質問される方はいらっしゃらないですか。 では、ここで今回の議題で話し合っていたいただきたい内容を説明していただきたく、【登録員D】の方からお願いできますでしょうか。
【登録員D】	回を4回重ねてやっとここまで整理できました。市と協力してすぐにできる、そして1年後、2年後、3年後、ちょっと時間がかかるな、予算がかかるな、そういった中・長期的なものがこうだよというのがみなさんのお手元の資料3に書かれています。中・長期的な視点として「大型バス駐車場」とありますが、資料5で簡単にみなさんに説明します。前回も若干説明したので繰り返しになる方もいらっしゃいますが、新しい人もいますのでお話をいたします。狙いは資料に書いてあるとおりです。本当はドイツのカヌーチームを草加に呼びたいです。(仮称)綾瀬川クラブハウスを後々の遺産としてなぜつくるのか。市民や子どもたちが

軽く休憩できる施設があるといいな。親子連れがちょっと寄って近くで休めるといいな。そういうことも含まれています。そして、予想される管理団体としては、市がやるのではなくて、私たちの団体でも十分市と協力して運営ができます。クラブハウスを作る時に、様々な補助金を受けられるように研究したらどうでしょうか。施設の内容としては、休憩室や会議室、水道やシャワーなどです。左岸広場にAEDが設置されてないのですが、土曜・日曜にたくさん親子連れが遊びに来ているのにそれでいいのかと私は思います。早急にクラブハウスを作ってAEDを設置したり、小さな子供を連れのお母さんが休憩したりできるようなそんなクラブハウスを中・長期的に作って欲しいということです。緊急安全施設、水難事故の救命拠点にもなります。中・長期的な視点として出されたものでもすぐにできるものはこういことだよ、とみなさんに箇条書きにさせていただきたいです。

大川図書が400年前に草加の宿場をつくってくれました。高橋課長の話は、そんな歴史ある草加の宿場町を中心に、魅力的な歴史ゾーンをつくっていききたいという、分かりやすいいい話だったと思います。そこを歩いた人たちが、綾瀬川沿いを歩いた時に、ほっと一息、いい気持ちになって、心豊かになる。そういうゾーンを、つまり歴史文化ゾーン、自然文化ゾーンをこれからみなさんと構築していったらどうでしょうか。今、高橋課長の話を聞くと、この日光道中草加宿が一步も二歩も前に進んできたと感じました。この草加松原と綾瀬川沿いの自然文化をもっとみんなで知恵を出し合って作り上げていく。市民にとって、本当に心が豊かなところだと私は思っています。風間駐車場のところの船着場はじゃ籠式になっていて、すごくいいのです。じゃ籠式は水辺まで階段状になっており、仮に落ちてしまっても水の中まで階段だからすぐに上がれます。残念ながら、ほとんどの船着場が垂直護岸なので、落ちたら助からないです。だから要所にこういうものを作っていこうということを提案したいです。越谷のレイクタウンにクラブハウスがあります。上野の森を歩いていたら素敵な喫茶店があって、景観を壊さないように平屋建てです。そのようなイメージでこのクラブハウスができればいいと思います。他には、草加松原の一番北側に大型バスを止められる駐車場を整備すれば、お客さんが遠くから大型バスで草加に来てくれます。また、一番南側の札場河岸公園の甚左衛門堰を曲がったところに100坪くらいの空地があります。県が今売り出しています。なぜ早く市が買って大型バスの駐車場にしないのかと思います。つまり、遠くから来てくれるお客さんがバスを止められる場所がないと誰も来てくれません。私が歴史民俗資料館に務めているときに、秋田の久保田藩の一行が50人程来てくれました。その時に、大型バスの駐車場の場所を聞かれましたが、私はえーあーうーと言いました。えーあーうーではダメなのです。そんなまちでは、早急にできることはやってもらいたいです。私たちはいつも左岸船着場から子どもたちも一緒に出航します。資料5の写真、右側は蒲生の船着場です。草ぼうぼうの階段をこの前みんなで掃除をしてきました。その時に国土交通省の専門官と偶然遭遇しまして、彼はこれから力になってくれるのです。つまり、何か市でやりたいと言った時に1億円かかったら、市がリーダーシップをとってやってもらえば、半分は国土交通省が出すと伝えてくれました。だから知恵を出しているんな補助金をもらって、どんどんやっていく必要があると思います。金明町のガマの自生地にゴミがたくさん溜まります。写真は中学1年生になった子どもたちがゴミを拾っている様子です。こんなふうに活動しながら、もう少し安全で、しかも市民に親しまれる水辺をつくっていくということで、これから

A班とB班に分かれて結論を出して欲しいのです。できることを箇条書きで書いてください。これは市民がやればすぐにできるよ、少し予算がかかるから国と連携しなければいけなから中・長期的だねとか、みんなの夢を語ってもらって、模造紙に書いてください。そして、私が提案をしたことは今日で終わりにして、行政からの回答を見守るようにして欲しいと思います。以上です。

【登録員A】

ありがとうございます。質問がある方はいらっしゃいますか。

【登録員B】

私も思うのですが、神明一丁目の交差点のところから三叉路にいくまでが何もありません。連続性が閉ざされてしまう。あの辺りも何とかしてもらいたいと思います。それと、やはり大型バスを止められる場所があるのだったら早く市の方で頑張ってもらって整備して欲しいです。

【登録員A】

今のご意見はBグループの中の意見として出していただきたいです。本件とはまた別になります。みんなでまちづくり会議の中で市に言ったものに対して応答がないことが一番ネックになっているという問題があります。今回の内容に対して先程もお話がありましたが、何課が関係するのか私たちが判断するのは難しいので、次回の会議の前半部分で、市からの応答という形でこの話に関してはどこの部署に打診してみましたということで、文書として出すということになっておりますので、みなさんが言った意見などで市からの応答がないということがないよう今後進めていく形でこちらは準備をしております。

今回、この後40分くらいで「短期的な視点」「中・長期的な視点」について、それぞれのグループに分かれて議論を進めていきたいと思います。その中で、自分たちはこういうことが中・長期的にできるとか、短期的にこれならばできるというものをできるだけ挙げていただきたいです。と言うのは、市だけでは難しいので国や県も一緒にという規模が大きい話に関しては、協働という部分ではなかなか難しいので、その意見も出していただいてもいいのですが、それだけではなくて、市民としてこういうことができる、水辺をきれいにするとかがゴミを拾うとか、市民の役割として動きやすいような意見も出していただければと思います。

産業振興課長から市として進めている事業の話がありましたが、本日は、資料3をもとに、さらに具体的に市民と市との「協働」事業としての提案に向けた話し合いができればと思います。

「短期的な視点」のグループは、すぐにでも実施できる具体的な提案を話し合っていたきたいと思います。「中・長期的な視点」のグループは、資料4：草加市都市計画マスタープランを参考にしながら、市の年次計画に反映させることができるよう話し合いをしていただければと思います。

それではグループごとに議論を行ってもらいたいと思います。最後に班ごとに発表していただきますので、グループごとに発表者を決めてください。それではよろしく願います。

グループごとの話し合い

【登録員A】

最初にAグループの短期的な視点からということでお願いいたします。

【登録員E】

Aグループでまとめたものを発表させていただきます。みなさんでいろいろ話したところ、非常にたくさんの意見が出ました。その中から4つに分類してみました。

まず、綾瀬川周辺を活性化させるためには草加をPRしていかなければならない。草加は今までおとなしすぎた、というような意見がたくさん出ました。それについて、PRすることとは、例えば宣伝をどうするかということなのですが、SNSを利用するとか、いわゆるインスタ映えというのですかね、それをするようなものが何もないのでそういうものを見つけていこうではないかと。あるいはパリポリくんという名前がありますが、このネーミングをうまく利用したらどうか。それから、話題性があるものをつくっていかないと、なかなか草加がこれから活性化できないのではないかと。要するにおせんべいだけでは活性化できないので、話題性に力を入れていくというのではないかと。具体的には、例えばPRのボードがありますが、ただ置いてあるだけではなくもう少しグレードアップするような飾りを考えてみるというのではないかと。素人が考えるのではなく、草加には美術協会がありますから、みなさんが協会にアイデアを出すことによって今ある建物がいきてくるのではないかと。次に、旧道をもう少し動きやすくしたらどうかということです。駅から遠いので、これは長期の方にも入っていますが、自転車を活用することとなりますが、レンタサイクルをもう少し具体化できないでしょうか。自転車を調達するのもなかなか難しいので、こういうものを含めて企業からタイアップしていただくのはどうでしょうか。もう少し企業と何かできないか。先ほど産業振興課の方からも話が出ておりましたが、こういった情報をなるべく共有してもらいたいです。そういう努力をこれからしていかなければいけません。企業の参加が可能となるアイデアを投げかけないと企業もできません。一口10万円以下でもいいのですが、広告に載せることで企業ものってくると思います。それもみなさんアイデアをいろいろと出しましたが、やはりその企業に対するアプローチをもっとみんなで強くしたいです。行政も含めて、一緒にやっていったらどうでしょうか。

もうひとつ、旧道を自転車でと言いましたが、その前に左岸広場にはトイレがないのです。商店のトイレを借りられるようにしたらどうでしょうか。その場合、ただ借りるだけでなく、商店ですからトイレを借りれば何かを買うでしょう。それもひとつの活性化につながるのではないのでしょうか。そういうアイデアがありました。それから自転車について、道が狭いので自転車が走っていると歩行者が歩きにくいです。自転車レーンをつくるのも結構です。できるだけ、そういう人たちが出やすい環境を整えれば、草加駅と左岸広場がつながるのではないのでしょうか。

3番目は企業にももう少しPRすることです。そのためには、企業との連携をどうしたらよいかということをもう一回考えてやってみたいと思います。産業振興課の話にもありますが、やはり商工会も含めてそのようなアプローチの方法があるのではないのでしょうか。それをもっと深入りして進めたいと思います。そうすれば、協力してくれる企業もあるのではないのでしょうか。それから、左岸広場でPRするポイントを1つつくったらどうでしょうか。草加には草加をPRする意外性のあるものが何もない。そういう意外性あるものを1つ考え

たらどうでしょうか。例えば、歩行者天国にするのも今後1つの方法かと思います。歩行者天国の時間帯を設けるとか、左岸広場をうまくつなげる方法を考えたらどうかと思います。また、商店にもそういうPRをしていただくということです。

4番目は川辺の活用です。船を使用したイベントを考えたらどうでしょうか。例えば、今、葛西用水では金婚式をしていますが、若い人にPRできることをやりたい。若い人にPRすることはPR効果があるのではないかということで、そういった活用も一つの方法でないだろうかということです。それから川に防犯カメラを設置したり、川にゴミが出たときはみんなで掃除しているのですがとても大変なので、これも企業も含めてできれば資金を少し調達するのも一つの方法ではないかと思います。企業に宣伝をできるような仕組みをつくっていくことによって資金を出せるのではないかと思います。例えば、生物の博物館を出したりしてPRしていくのも一つの方法だと思います。以上です。

【登録員A】

ありがとうございました。続きまして、Bグループの発表をお願いします。

【登録員D】

Bグループは中・長期な視点で、行政と市民が協力をして何ができるか、最優先するものが何であるのかということで、クラブハウス、交通の問題、休憩所、安全という問題点を話し合いました。

議題で一番話が集中するのは、クラブハウスをつくるということです。今はありませんが、左岸広場や船着場の辺り一帯で、親子連れなど様々な人たちが休めるようなクラブハウスが必要だと思います。特に市民の安全面を最優先にして、早急に行政と協力してつくっていく必要があるのではないかとということです。

他には今様草加宿市民推進会議があって、ここ十数年宿場のまちづくりと草加松原綾瀬川沿いをいろんなアイデアを出してまちを変えてきていますが、テーマパーク川の駅そうか村を作る計画を一生懸命練っているそうです。5年計画、10年計画で草加らしい水辺の川の駅をつくっていくと。他には綾瀬川から運河を引き入れて、船が常時停泊できるようなものを作るということになると中・長期になります。船を利用して綾瀬川を下って東京に行く。中川に出られるので中川を遡って綾瀬川防水路で金明町に下れるということです。他には、船で潮干狩りに行ったりディズニーランドに行ったりするような市民の夢がある基礎作りをこれから五年十年かけて提案していこうではないか。やはり、最優先するのはクラブハウスをつくることです。江戸時代風のテーマパーク川の駅をつくって、そこに集う市民が安心して健康で安全に暮らせるようにAEDも置いて、人を助けられるような公園にしていくことが必要ではないかと思います。最近、松並木の南側に芭蕉庵ができました。観光客にとっては非常に好評です。ご近所さんにとっては朝早くや夕方集うコミュニティの場であったので、整備されてからは早く閉められてしまったり、朝開くのが遅くなってしまい不評だという話を受けて、この運用面については考えていかなければいけないです。餃子房の裏にさかえーるというコミュニティの場ができるそうです。これを合わせて利用していきながら、これからもっとコミュニティの場を広げていこうではないか。ベンチに企業名を入れてスポンサーにするとか、そういうアイデアをどんどん出していけるのではないか。安全面ですが、今は垂直護岸の船着場が多いので、人が落ちると助けてと言っても対応できません。しかし、じゃ籠式だと自然に優しく、親子で魚釣りをしたり、カヌーが上陸したりする時に水の中も

階段状だからすぐ上がれます。草加の橋の前後には、国土交通省と協力して補助金をもらって、安全な水辺をどんどんつくっていく動きをつくっていく必要があります。

他には、草加松原の南側と北側に早急に大型バスのパーキングや転回所をつくっていく必要があります。このところで芭蕉庵ができたので、南側には駐車場、そして北側にも転回や停車できるような駐車場、そして観光案内板を立てて、お休み処をつくってもらいたいのではないかと。市民で協力してお願いをしに行くとおもしろいのではないかと思います。みんな行政にお願いすることばかりではないと言われるかもしれませんが、そうではありません。例えば、クラブハウスについては、いつでも子どもたちを助けられるAEDを置いて救急で飛んで行ったり、親子連れが来て少し休憩した時にお茶を出せるような運営はパドラーズでも十分できます。生態系保護協会等と協力して、ローテーションを組んだ運営が可能だということを代弁したのですが、何かをつくったら運営は市民がやるよということをお話ししました。以上でございます。

【登録員A】

Bグループのみなさんありがとうございました。

短期的な部分において、今までと違った意見としては、企業とのタイアップが重点的になっているところでした。私たちの意見を商工会議所に問い合わせた上で、それにのってくれそうな企業を集めて交渉して会議に参加していただくような形でやっていると、短期的な視点においてはかなり早い展開で進むのではないかと感じました。長期的な部分においては、川の安全性という部分で何か所か安全ポイントがありますよという、さっき話が出たじゃ籠式の部分がパッと見て分かると、ここは降りても大丈夫だという目印ポイントが何か所かあると、川に親しみやすくなると思います。それは長期的と言いつつも、短期的なことではないかということでした。また、企業とのタイアップも関係して、企業が何かを展示したり、他のところにつなぎ合わせるができるという部分で、中・長期的と言いつつもかなり短期的な部分で進めていけるのではないかと、協賛なども集めるのではないかと感じられました。

また、もしかしたらこういう企業とタイアップできるのではないかとか、みんなでまちづくり会議を通して市から市民の方にアートのことでコンテストだとか賞金があったりだとか、実際、現地の企業の集いをやっているとか、左岸広場の名前の募集をかけているというので、市から市民への問いかけをしているということもありますので、企業ともつなげる場にもみんなでまちづくり会議はなるという感じも受けました。

今回は前半部分で、市の方ではどのような考え方で、関係するのはどの部署だとか、先程言った企業として草加にそういう企業はあるのかとか、商工会議所の方にもそういう企業はあるのか打診していただいて、協力していただける企業はないかといった情報を伝えられるのではないかと思います。

後半部分では、テーマがいくつか出ている中で今回はテーマ4についてお話ししていただいたので、次回は残っている1と2と3のテーマを出してくださった方に集まっていただいて、後日改めてですが、この時にテーマを絞って話し合いをした方がいかに話をした上で次回のテーマを決めるという形にしたいと思います。何か質問等がありますか。

【登録員 F】	<p>クラブハウスの話が出てきていて、八潮にはマリナーがあります。川口市にもあります。私は海のない埼玉に引っ越してきて、何がさびしいかという海がないことです。でも、船を見ると心が躍ります。夢があります。この川幅に合わせた何かを持つことが草加の魅力につながるのではないかと感じました。</p>
【登録員 A】	<p>ありがとうございます。他に何かありますか。</p>
【登録員 B】	<p>今日をもって結論として、市や関係団体とかに提案書みたいなものを作る形ですか。</p>
【登録員 A】	<p>この川辺の話し合いは草加市のマスタープランの中に入っているということで、このマスタープランの中にどこまで取り込んでいただけるのかを私たちが市に話を持っていく形をとります。前半では市からの回答ということで、こういったところに打診しましたとか、文書的なところで回答としてまとめていただく形になっています。</p>
【登録員 B】	<p>ひとつだけどうしても気になるのが川の透明度です。あれだけ水がきれいな日本の技術をもってして、なぜもっと川をきれいにできないのかと。</p>
【登録員 A】	<p>Aグループでも出ていまして、水質関係においてボランティアだけでなく企業ともタイアップして、きれいにできる方法がないかと話し合いの方で出ていますので、こちらも伝えていきたいと思います。他にご意見ございますか。</p>
【登録員 G】	<p>柴田科学の方が今日の環境推進協議会に出てくれました。彼は一年中松原大橋で測定しています。県は3mg/lまで達成しているというけれど、実際に地元の方が測ってみると透明度はあまりありません。そして、柴田科学さんの一年間の測定によると平均5mg/lです。だから、もっと透明度を高めていかないと鮎が住める川には程遠いです。それを国土交通省にどのように市が働きかけていくかがこれからの課題です。更に綾瀬川をきれいにしていくために行動していきましょと、今日はその第一歩だと思った方がいいかもしれません。</p>
【登録員 A】	<p>それでは後日、テーマを出題した方とどなたか日程が合う方がいらっしゃいましたら、この話し合いの後に私の方に来ていただければと思います。これで私の方の進行を終わりにさせていただいて、事務局の方に戻したいと思います。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">・・・進行を事務局へ・・・</p>
【事務局】 (鈴木所長)	<p>司会が淀破りなのですが質問させてください。今、このような形でA、Bグループでまとめていただきました。これを次回は事務局側で関係する部署や企業に...という話が出てきていますが、実際これはハードルが高いと私は感じています。正直、企業にPRするというのは何をどうするのかというところなんです。どう話を持っていったらいいかというのが、私は話を伺っていて分からなかったです。何かもう少し細かく具体的にこういうところだよ、という</p>

	<p>部分を教えていただけますでしょうか。それでないといけないと思って拝聴していました。いかがですか。</p> <p>【登録員A】 Aグループの方、どなたかお願いします</p> <p>【事務局】 (鈴木所長) 【登録員H】 具体的に企業は何をPRできるのかです。</p> <p>企業に対しては、例えば個々にあたるのは難しいと思います。一番先に企業をまとめている集まりがあるはずなので、そこから話を通していくといいと思います。それから、商工会、小さな商店を含めたエリアがあると思うので、その2つから攻めていけないと思います。</p> <p>【事務局】 (鈴木所長) 【登録員H】 手段というか視点ですよ。具体的に何をどうするのか教えていただきたいです。</p> <p>民間として、どこまで協力できるかをみなさんに投げかけたいがそれについてどう考えますか、ということから入っていくと思います。そうしないと、ただ行政からお願いする形ではなくて、こういう意見がでているのですが、例えば綾瀬川のベンチもそうですよね、企業としてどこまで協力できるのか、あるいは参加してもらえますかという投げかけの話をしないといけない。やはり、企業に対するPRが少なかったのではないかと思います。</p> <p>【事務局】 (鈴木所長) 例えば今の話ですと、お言葉ですが、役所だけにやってくださいではなくて、みなさんはやってくださらないのですか。</p> <p>【登録員H】 もちろん我々もやるのですが、その場合、窓口を行政の方で、例えば工業会などに話をつないでもらわないと、いきなり我々が個人で行っても話を取り合ってもらえません。そのところをつないでもらわないといけないと思うのです。</p> <p>【登録員A】 補足的な問題でベンチの話が出たところから企業の話がでたと思います。情報が広報誌にでも見ている人が少ないのではないかということで、例えばみんなでまちづくり会議でこういった話がでていますよ、というのを商工会などにお知らせをして、それにのってくれる企業はありませんかみたいな情報の配信の仕方です。企業を利用した方がいいのではないかとというのが意見の一つでした。そこから発生して、私たちではできないことを企業の方でできないかという形であって、全部を市の方でやってもらう形ではなかったです。その情報があまり知られてないのではという話でした。</p> <p>【登録員I】 企業の方を草加市内でまとめているのが草加商工会議所です。商工会議所は商業と工業があり、商業の方が草加市商店連合事業協同組合、工業の方が草加市内で4つの工業会があります。そういったところに話を持っていくというのが1つと、役所の側でそういったところを取り仕切るのが産業振興課です。ですから、みんなでまちづくり課と産業振興課に今日は</p>
--	--

	<p>来てもらいましたが、連携しながらベンチのネーミングライツをどうですかと作戦を練って、みんなでまちづくり会議の代表も名を連ねて要請していくというように共同でやっていたらどうでしょうか。</p> <p>行政と市民との協働でやると言っているのですから、行政だけで単独でやるのではなくて、我々の名前も出して、それでまず草加商工会議所に出して、工業会だ商連だといった形で作戦を練っていくといいと思います。</p>
【登録員A】	<p>ありがとうございます。大丈夫でしょうか。事務局の方に司会を戻させていただきます。</p>
【事務局】 (鈴木所長)	<p>この会議が9時までということでしたので、本当はもしお時間があれば、もう少し深いところのお話を伺って議論が進めばいいと思ったのですが、時間切れになってしまい申し訳ございません。この話は仕切り直しということで、こちらは機会を別に設けて、コアなメンバーで協議させていただきたいと思います。そういったところで協議するということがよろしいですか。では、話し合いを後日、日にちと場所を変えてということになるのですが、ご協力いただける方はいらっしゃいますか。時間を調整してお声掛けさせていただきますのでご協力ください。</p> <p>もう1つすみません。次回のテーマが決まってない形になるのですが、今回は都市計画マスタープランの関係部署をという話がありました。本日、A班B班に分かれて協議されていて、特に長期的なところです。実際、市の都市計画マスタープランの細かなところは専門ではないのでお話しできないのですが、都市マスを実際に学んで、みなさんのご意見を都市マスにつないでいくという意味でも、【登録員K】が都市計画マスタープランの関係部署に来ていただいて話を聞いたらどうかということも話をされていました。過去の会議録も拝見していて、マスタープランという言葉が何度もでてきていましたので、そういった部署をお招きしたらいかがかなと思います。もし、今日、次回のテーマが決まっていたら、テーマに関連する部署をお招きしてもいいのかなという思いもありますが、みなさん、最後にいかがですか。</p>
【登録員D】	<p>私は提案した立場から話をさせていただきます。市の都市計画マスタープランの第1に水とみどりのネットワークの形成と書いてあります。そして、河川や水路を軸とした親水空間や緑道のネットワークを形成すると書いてあります。その最高責任者の部長なり課長に次回、1番に掲げているものをどう考えているのか、私たちからはこういう意見がでましたよと報告を差し上げて、次回、お話をいただければ、今日みなさんが一生懸命2時間かけてやったことが生きてくるのかなと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
【登録員】	<p>それでやりましょう。</p>
【事務局】 (鈴木所長)	<p>それでは、皆様の今日の協議内容をまとめる意味で、都市計画マスタープランに関する部署である都市計画課の担当者もしくは課長に来ていただいて話を聞くということによろしいですか。</p>

<p>【登録員】</p>	<p>はい。</p>
<p>【事務局】 (鈴木所長)</p>	<p>あとは進捗状況です。中・長期的なことはすぐには結論ができませんから、これはもう申し上げておきます。ですから、どちらかという短期的なところを途中経過であってもご報告するというので、次回は皆様に返したいと思います。よろしいですか。</p>
<p>【登録員】</p>	<p>はい。</p>
<p>【事務局】 (鈴木所長)</p>	<p>それでは、長時間にわたり審議していただきありがとうございました。本日、進行役を務めていただきました【登録員A】、B班に入っていた【登録員D】ありがとうございました。次回の会議は、平成30年7月25日(水)に同じ場所(中央公民館第1第2講座室)で開催します。実りある会議にしたいと思いますので、皆様ぜひまたご参加ください。次回の進行役ですが、【登録員K】と【登録員A】に引き続き務めていただきたいと思います。いかがでしょうか。</p>
<p>【登録員】</p>	<p>はい。</p>
<p>【登録員J】</p>	<p>すみません。先程、さかえーという話がでていたので、私たちみんなの保健室ひだまりがさかえーを活用させていただいて、毎週木曜日に健康相談を受けながらイベントをやったり人が集まる場を作っています。今まで2年間やっているのですが、男性の参加が非常に少ない。それで、明日、木曜日のテーマは「おじいさんはどこにいった」というテーマでやろうと思っています。ですので、男性のみなさん、ぜひいらっしゃってください。どうぞよろしくお願いします。</p>
<p>【事務局】 (鈴木所長)</p>	<p>それでは、これもちまして、平成30年度第1回みんなでまちづくり会議を終了いたします。ありがとうございました。</p>

平成30年度第1回草加市みんなでまちづくり会議

次 第

平成30年4月25日（水）午後7時～
草加市立中央公民館 第1・2講座室

1. 開 会

2. 議 事

<議題>

「まちづくり・ひとづくり」

「④綾瀬川など市内の河川の積極的な活用や応用」

資料1：テーマ一覧

資料2：平成29年度第4回草加市みんなでまちづくり会議 意見の整理

資料3：平成30年度第1回草加市みんなでまちづくり会議 意見整理書

資料4：都市計画マスタープランより（抜粋）

資料5：仮称「綾瀬川クラブハウス」

資料6：みんなでまちづくり会議の運用

3. 閉 会

- (みんなでまちづくり会議)・・・草加市みんなでまちづくり自治基本条例より抜粋
- 第26条 市は、次の事項について市民の参画を実現するため、まちづくり登録員で構成するみんなでまちづくり会議を開催します。
- (1) 前条のまちづくり計画の提案
 - (2) パートナーシップによるまちづくりの政策提言
 - (3) この条例の運用の監視
 - (4) この条例の調査・研究
 - (5) その他この条例に基づくまちづくり
- 2 市は、前項の内容を公表します。
 - 3 市は、みんなでまちづくり会議において提案され、話し合われた事項について、市政に反映するよう努めます。
 - 4 市は、前項の反映結果について公表し、みんなでまちづくり会議で説明をします。
 - 5 みんなでまちづくり会議は、前項の反映結果について納得できない場合は、別に定めるところにより、市議会で意見を述べる機会を求めることができます。
 - 6 市議会は、前項の意思を尊重します。

募集テーマ一覧

テーマ	
<p>①共生社会とは何か（住民サイドから考える）</p> <p>住み慣れた地域で暮らし続けられる「ふるさとまちづくり」</p>	<p>名称：まんまるプロジェクト（まるプロ）</p> <p><趣旨></p> <p>高齢化に伴い、医療・介護の資源不足が大きな問題になっている。したがって、政策的に地域包括ケアシステムが推進されています。</p> <p>医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制とありますがさっぱり分かりません。「タテワリ」から「まるごと」へと発想の転換が必要と言われています。とにかく住み慣れた地域で、病気になってもボケても暮らしていきたいと思いませんか？自分たちの問題としてみんなで助け合い「お互い様のまちづくり」を考えていきましょう。</p>
<p>②各町会組織利用について</p>	<p>今までの町会の運営の良い点、改善点。また、今後、新たな世代や入居者に対し、参加しやすく、地域密着型の治安、子育て等のメリット向上について</p>
<p>③駅を核にした特色あるまちづくりを進めるには</p>	<p>草加は金曜の夜から日曜の夕方まではそこその人と商売は成り立っています。しかし、平日は地元で商売（会社）を営んでいる人、専業主婦、そこそこ元気な高齢者と固定人数が決まっていて、どんなに彼らがMAXに動いても数字は読めてしまいます。そこで流動人口をいかに増やすかということになるわけです。</p> <p>草加には、文化的施設がほとんどありません。博物館、美術館、もう少しミニサイズでアトリエ、ライブハウス等、さらに人的文化教育の場として獨協大学だけでもっと他に大学を誘致したり、専門学校、総合福祉学校等を駅前総合開発に繰り入れたらどうでしょうか。</p>

④綾瀬川など市内の河川の積極的な活用や応用（水辺を活かしたまちづくり）

1 草加松原と綾瀬川は、市民にとって最も自慢できる自然文化や歴史文化の一つであります。私たちは、この綾瀬川をもっと活かした街づくりに取り組んでいくことが重要であると考えています。

2 水質汚濁全国ワーストワン連続15年間だった綾瀬川を再生し、市民に親しまれる清流を取り戻し、安全な水辺を構築していく必要があります。（昨年、3歳男子と草刈り作業中転落死男性の2件の事故が発生＝危険な水辺の改善）

3 草加パドラーズ（会員19名）がカヌーで不法投棄浮遊ゴミ回収（毎週水・土・日の午前中）を3年間実施しています。今後は、水質汚濁の改善（荒川・利根川導水）にも対策を考え活動してまいります。国土交通省専門官の指導を仰ぎ、行政と連携して参りましょう。

4 観光和舟（月1回就航）、カヌー教室、SUP教室など定期的に実施して、市民に親しまれる河川を目指し活動をひろげていくことが大切です。水辺に親しむ活動によって、ふるさとの綾瀬川に愛着がうまれます。市民や子供たちの郷土愛にもつながります。

5 草加松原へお休み処（茶店など）、左岸広場船着場付近などに軽食やお茶が飲める建物（センスの良いクラブハウスなど）を建て、気軽に立ち寄れる施設を造り、草加煎餅とコラボさせ食文化と健康づくりを発信できる施設を造り、NPOに運営を委託するなどの計画を推進させましょう。（障がい者施設との連携や工夫、雇用の創出＝みんなが幸せになれるまち）

6 草加宿（草加駅）と草加松原（獨協大学前駅）、綾瀬川までの回遊性、綾瀬川から神明排水機場をへて獨協大学までの伝右川の活用などを考えた魅力ある街づくりを構築していくことにより、歴史と文化を大事にした観光都市を目指すことができます。魅力ある都市には若者が集い、人口増となり草加市の益々の発展が期待できます。

平成 29 年度第 4 回草加市みんなでまちづくり会議 意見の整理

■テーマ：まちづくり・ひとづくり

■趣 旨：「まちづくり・ひとづくり」の中でも「綾瀬川など市内河川の積極的な活用や応用」を今回の議題のテーマとして、その中でも草加松原へお休み処や軽食、お茶が飲める建物などを検討すること。

また、前回会議で議論された内容を短期的な視点と中・長期的な視点に分けた一覧表をもとに、市民と行政が協働可能なものとできないものに選別する。

今回は、草加松原や文化会館に関する内容であるので、文化会館付近で建設を予定している計画について、所管である文化観光課の籠宮課長よりお話を伺う。

《Aグループ》

- ・「草加松原」について議論し、問題点を考えた。
- ・休憩所が無いことが問題点であると認識。
- ・「草加宿案内人の会」の受付を作るとよい。
- ・観光客に案内するのも良いが、小学校の授業の一環として取り入れれば更によい。
- ・そうか公園の活用も考えた。
- ・動植物を活用することや道の駅にするとよい。
- ・サイクリングロードを作るとよい。
- ・会議の中で、企業や団体を招くことで新しい視点が生まれるのではないか。
- ・大型バスや観光バスがいつでも停車できる場所を作ることが必要。

《Bグループ》

- ・市民が綾瀬川で活動する時は心が豊かになることが必要。
- ・船着き場とクラブハウスに関して、協働可能かについて考えた。
- ・和船も泊まれるようなしっかりとした船着き場が必要。
- ・垂直護岸は避けて階段状にすることで市民が水辺に近くなり親しみやすくなる。
- ・船着き場の場所として、獨協大学の学生センター前に建設すれば、学生との交流の場にも繋がる。
- ・学生と共同でゴミ拾いやカヌー教室の実現も可能。
- ・クラブハウスはカヌーや和船の方々の拠点のみでなく、観光客の憩いの場所としても使用が可能。
- ・多目的に使用されるとよい。

《補足意見》

- ・クラブハウス建設に関して、産業振興課で取り組んでいる草加リノベーションまちづくり事業を参考にするのがよい。
- ・空き家など活用し、若者が入るような拠点になれば良いという構想であるので参考になると思う。
- ・新しい発想が生まれる事にも繋がってくると思う。
- ・今回の会議で出た内容が総合振興計画や都市計画マスタープランの中でどのように繋がっているのか検討

が必要であるので、次回の会議の前にもう一度、整理をする必要がある。

《テーマ出題者の感想》

・会議の内容を具体的に市と協働して形にするという入口に立つことができたと思う。次回の会議では市と協働するためには、もっと具体的な企画が必要である。さらに具体的な形にしていくことができればと思う。

《次回の会議について》

・行政より報告という形で、次回は産業振興課に説明をいただきたいと思う。
また、今回の会議の内容を更に詰めていくということで議論を進めていきたい。

以上

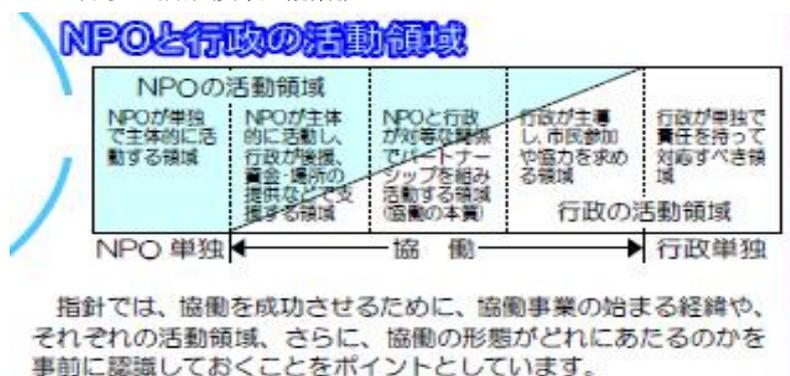
平成30年度第1回草加市みんなでまちづくり会議 意見整理書

■テーマ：「まちづくり・ひとづくり」

■趣 旨：市と市民で協働できる内容（提案事項）「まちづくり・ひとづくり」の個別テーマ「綾瀬川など市内の河川の積極的な活用と応用（水辺を活かしたまちづくり）」について

★協働の視点・・・【短期的な視点】【中・長期的な視点】をもとに、NPO（市民）と行政の「協働」で事業を進めていくことが可能かどうか。

【参考】NPOと行政の活動領域（協働）について



～平成29年度 第3回、第4回で出された主な意見（参考）～

【短期的な視点】リーダー：江原登録員

- ・市民の力で実現可能なものについて
- ・草加松原PRのための方策
- ・綾瀬川、草加松原に日陰場所設置について
- ・草加せんべい以外に草加をPRできるもの
- ・獨協大学(学生)との連携
- ・水辺に親しむ活動

【中・長期的な視点】リーダー：中島登録員

- ・仮称「綾瀬川クラブハウス」の建設
- ・船着場の設置、安全な水辺の建設
- ・大型バス駐車場(草加松原南端・草加松原北端)
- ・サイクルステーション(獨協大学前駅完成)
- ・サイクルコース、サイクリングロード
- ・草加松原南端、案内ガイド施設・お休み処(草加芭蕉庵完成)
- ・草加松原北端、案内ガイド施設・お休み処(風間工務店前)

今様草加宿「綾瀬川かわの駅構想」(提案資料)

仮称「綾瀬川クラブハウス」

東京五輪・パラリンピック記念館

1 ねらい

2020年、東京五輪・パラリンピックで綾瀬川・伝右川へドイツカヌーチームを招聘し市民や子どもたち、獨協大学生が国際感覚を身につける機会とするとともに、安全で楽しい水辺スポーツを普及させる拠点となる。

2 レガシー

- ①ドイツチームをおもてなしする拠点とする。(事前)
- ②市民や子どもたちがカヌーなどで水辺に親しむ拠点とする。(事後)
- ③船着場、左岸広場に集う市民や子どもたちの安全・安心ステーションとする。(事後)
- ④市民や子どもたちが軽く休憩し、湯茶が振舞える施設とする。(事後)

3 予想される管理・運営団体

- ①草加パドラーズ
- ②サルベージ協会
- ③埼玉県生態系保護団体草加・八潮支部
- ④サップ
- ⑤獨協大学米山ゼミ「伝右川再生プロジェクト」など

4 予想される予算、補助金獲得など

- ①カワベリング事業(国土交通省)
- ②はつらつプロジェクト(埼玉県)
- ③オリンピック補助金(国・オリンピック委員会)
- ④新規事業予算(草加市)

5 施設の概略

- ①施設 フロント1 小会議室(休憩室)4 大会議室1 艇庫1
- ②設備 水道 シャワー 電気 空調 AED 防犯カメラ
- ③備品 テーブル 椅子

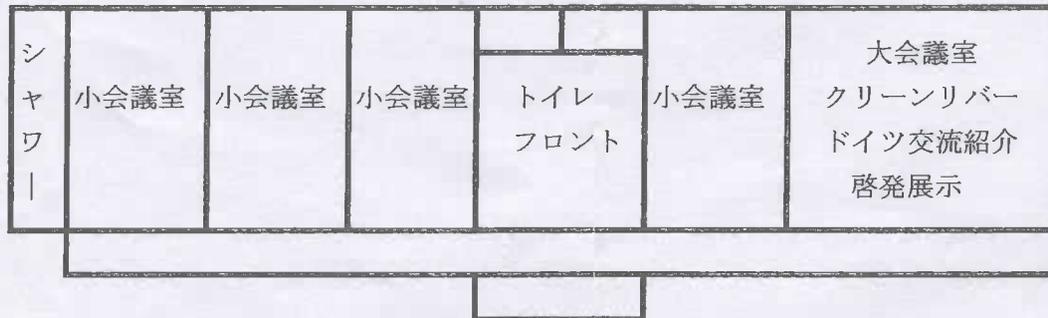
6 緊急安全施設

- ①非常時の左岸広場への一次避難者生活用品搬入施設となる
- ②水路による援助物資受け入れ拠点となる
- ③水難事故者の救命拠点となる
- ④左岸船着場、公園利用者の安全・安心拠点となる

7 その他

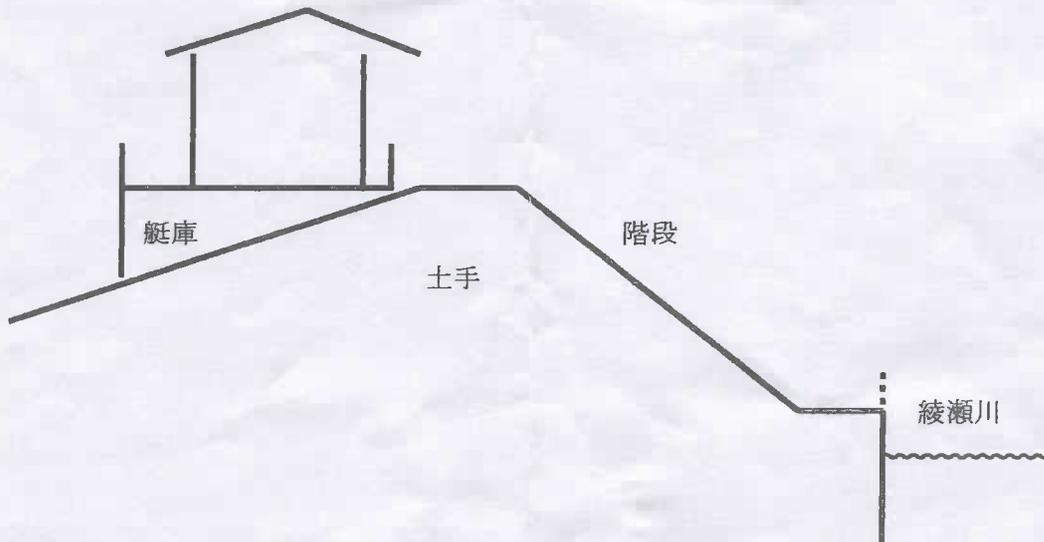
- 2018年度 検討、協議、予算化
2019年度 計画 着工 完成
2020年度 運営 ドイツチームを迎える
2021年度 水辺に親しむ活動展開

「綾瀬川クラブハウス」の概要(案)



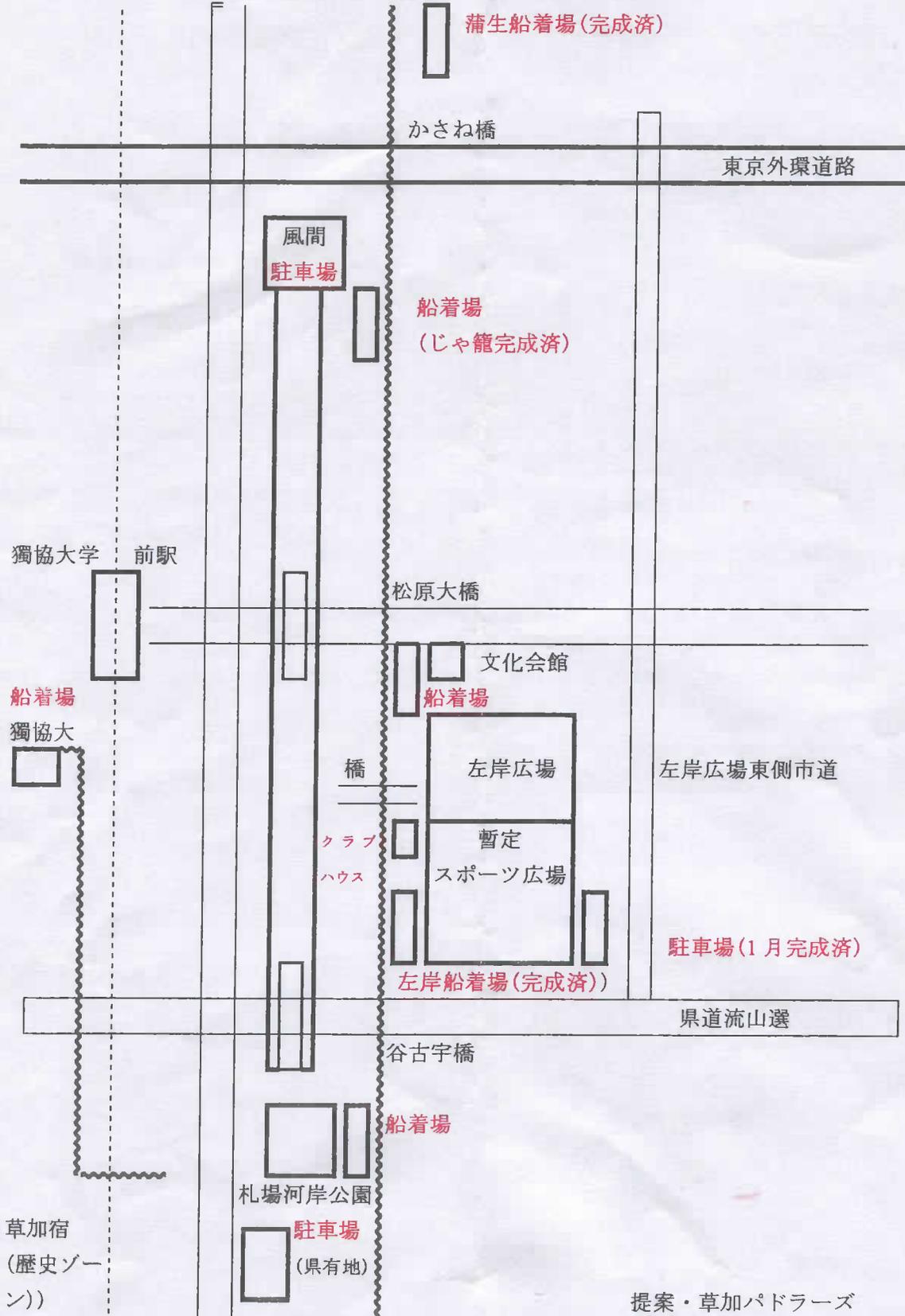
クラブハウス設置場所(概略)

左岸船着場付近



水辺を活かしたまちづくり(水とみどいのネットワーク)

(草加松原・綾瀬川＝自然文化ゾーン)



提案・草加パドラーズ

みんなでまちづくり会議(提案資料)

水辺を活かしたまちづくり

1 仮称「綾瀬川クラブハウス」水辺スポーツを普及させる拠点づくり

・暫定スポーツ広場と左岸船着場の中間点の斜面に「クラブハウス」を建設

※別紙の通り



クラブハウス内部例



越谷市レイクタウンで撮影

クラブハウス外観例

2 「船着場の設置」安全で親しみのある水辺づくり

①じゃ籠方式の船着場 ・手代橋、八条大橋、松江橋、谷古宇橋、松原大橋、中曽根橋、かさね橋、拂戸橋の8橋付近にじゃ籠方式の船着場を

- ・じゃ籠は危険な垂直護岸を補完し、親子で釣りが楽しめ転落しても這い上がれ、カニや魚類、小動物など水辺の小動物にもやさしい構造である。
- ・ゴムボートは針金類に弱いですが、その他木製和舟、塩ビ製カヌーは問題なし

(事例1 松並橋上流側じゃ籠式の階段)



2018.2.11 撮影

②階段やスロープのある船着場 観光と非常時物資の陸揚げ

- ・草加市立文化会館の眼下へ
- ・札場河岸公園の眼下へ



①左岸船着場



②蒲生船着場
専門官松本在氏と
2018.2.10 撮影



金明町ガマ自生地のゴミ拾い
(干潮時)



(満潮時)

みんなでまちづくり会議 の3つの機能

①市民同士の話し合い

市民が
集まる場

情報交換
の場

議論のテーマを市民が発意し、市民が他の市民と話し合える場として活用できる機能。

同じテーマで活動する団体との情報交換や協力関係を築く場として活用したり、全く別のテーマで活動する団体からの新たな発想や広い視点での意見交換ができる場として活用します。

普段、なかなか接する機会のない市民同士が集まり、意見交換することで、新たな気づきが生まれます。

②市からの発信・情報共有

市の情報
発信の場

市民意見を
聴く場

市民からの提案がなくても、出来るだけ定期的な開催が実現できるよう、市が情報を発信したり、市民の意見を聴く場として活用します。特に、市の重要な計画等を策定する場合は、パブリックコメントとは別に、積極的にまちづくりに取り組む市民の意見を聴くことができる機会として活用します。

③提案について考える

市民への
相談の場

提案を議論
する場

提案の前段の相談手法のひとつとして、みんなでまちづくり会議を市民同士の意見交換や協力体制確保の機会として活用し、まちづくりへの市民参加を促進するとともに、提案をより具体性のあるものとなるよう市民同士で提案を考える場としても活用します。

市民同士
の連携

市民活動
の活発化

提案

協働事業

市民自治
の実現

と

パートナー
シップによる
まちづくり

提案できるまちづくり計画の要件

①対等の立場

パートナーシップによるまちづくりの7つの原則に基づくもの
(主体性・対等性・協調性・柔軟性・公開性・普遍性・発展性)

②共通して取り組む目的

市の基本構想及び各分野の基本的な計画に反しないもの

③役割分担

提案者と市の役割分担が設定されているもの
(双方の役割がゼロでないもの)